

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語の漢字を正しく使うこと、算数「乗法と除法」の計算の定着に課題がある。 <指導上の課題> 児童が自らの学びを振り返る時間を確保するための授業マネジメント力の向上。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【毎日の宿題や授業開始時の実施】授業中に児童が学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。【毎時間設定】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを論理的に説明することに対して苦手意識がある。 <指導上の課題> 子ども主体の学びとなるよう本校の育てたい資質能力につながる授業実践。	⇒ 他者との協働を通じて自分の考えを比較、検討する場面を多く設定するなどの実践を取り入れていく。また、児童の目的意識を醸成し学習の進め方を選択、決定させる学習を多く取り入れていく。【単元を通して計画的に実施】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現			

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は、昨年度の本校平均正答率と比較し、+8.1P向上した。理科の「電気の性質」において課題が見られた。身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物の区別が充分できていない。自然の事物・現象と知識を関連付けたり、知識を相互に関係付けたりできていないことが考えられる。児童質問「課題の解決に向けて、自分で考え、自分からとりくんでいましたか」に対する肯定的な回答が93%を超えた。今後も全ての児童の主体性を引き出すことができるよう、教職員の研修を積み重ねていく。
思考・判断・表現	国語は、昨年度の本校平均正答率と比較し、+9P、算数は+2.7P向上した。算数科の「数と計算」において課題が見られた。「共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分か」を数や言葉を用いて記述することが苦手である。児童質問「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表」や「次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」に対する肯定的な回答は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、他教科等とつなげたり、日常生活と関連付けたりする授業を構想していく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を児童の定着状況に応じて活用し、基礎学力の向上を進めた。例えば、国語では、単元はじめに立てた目標と照らし合わせて振り返りを行うことで、自己の課題を明確にし、次時に生かそうとする児童が増えてきた。算数では、スクールタイムポートやExcel(共同編集)等、振り返りから知識を繋ぐ実践を積み重ねつつある。	変更なし
思考・判断・表現	B	自分の考えをもち、他者と意見を比較検討する活動を、児童の実態を見極めながら継続して行った。例えば、理科では、課題から実験方法を個人、ペア、3人組と児童に選択できる環境を整備し、各自検討し、安全性を教員と確認後、実際に実験することを継続して行った。その結果、説得力のある考察を個々で出し合い、多面的・多角的に比較する活動ができ、深い学びにつながっている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)